

雌阿寒岳

1 概況（平成 14 年 7 月）

7 月 15～16 日に小さな地震がやや増加しましたが、その他の観測データに異常を示すような変化はありませんでした。長期的に見ると時々地震が増加したり、ポンマチネシリ 96-1 火口では高温の状態が続くなど火山活動は高いレベルを維持しています。

2 噴煙活動の状況

ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙高度は平常と変わりなく火口上 50～200m 程度で推移しました。その他の火口についても特別な変化はありませんでした。

3 地震活動の状況

7 月 15～16 日に震源がポンマチネシリ北東部と推定される振幅の小さな地震がやや増加しました。今回の活動はごく小規模なものでしたが、定常的に地震が起きているポンマチネシリ火口直下とは異なる場所で地震が発生したことから、今後の推移を見守る必要があります。

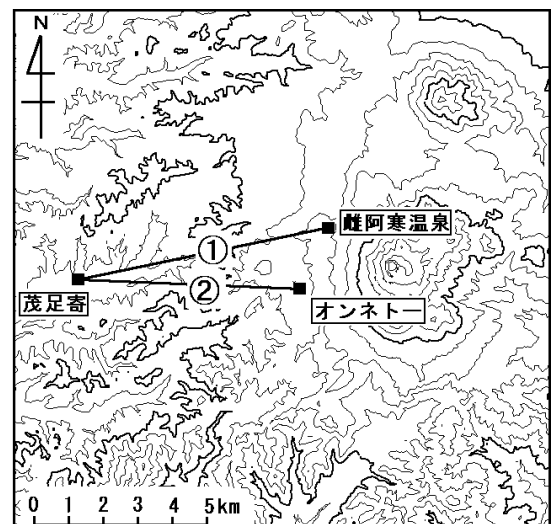
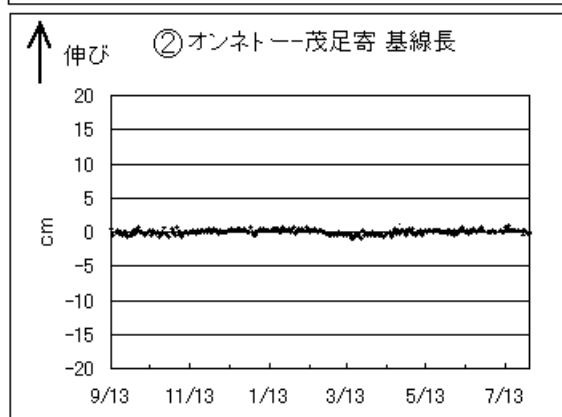
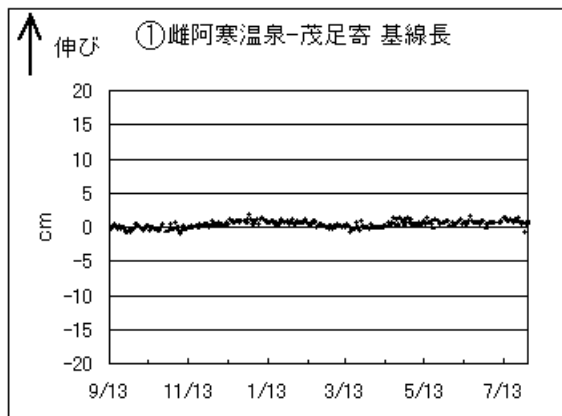
それ以外は 1 日あたり 0～4 回と平常レベルで推移しました。火山性微動は観測されませんでした。

月別地震・微動回数（B 点）

平成 13～14 年	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月
地震回数	242	53	29	56	18	21	39	204	17	11	20	32
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0

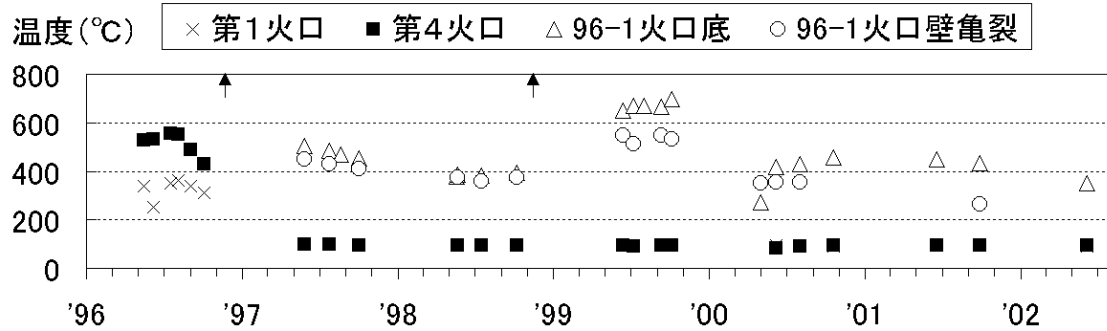
4 地殻変動の状況

G P S 観測では、火山活動に起因すると考えられる特別な変化はありませんでした。

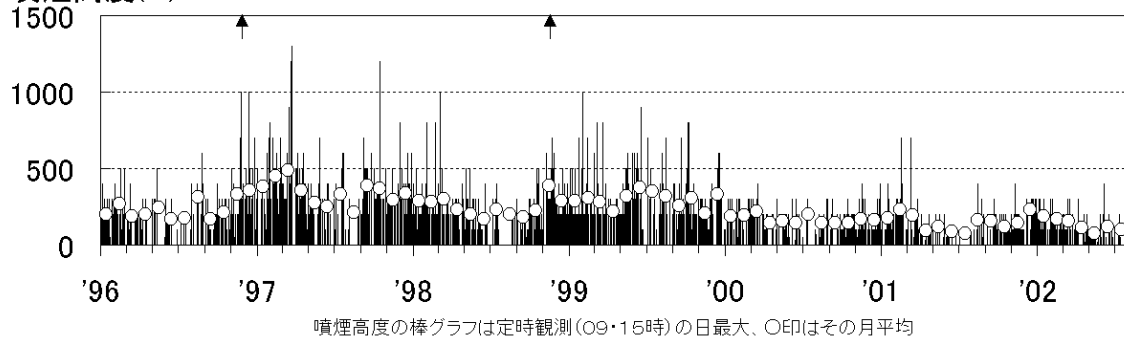


雌阿寒岳基線長グラフ（2001 年 9 月 13 日
～ 2002 年 7 月 31 日）

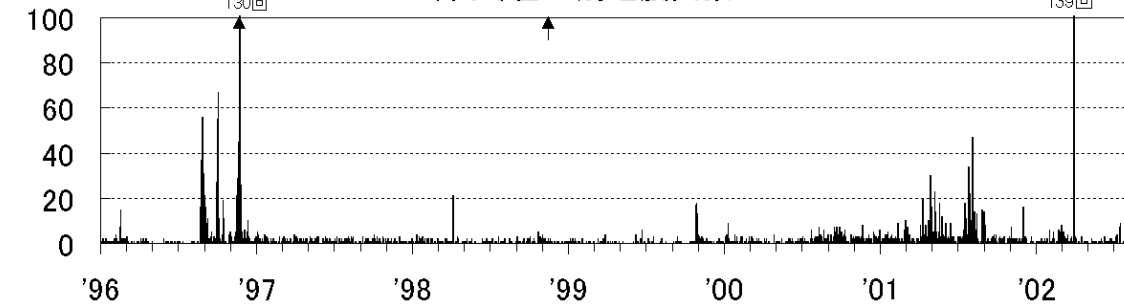
雌阿寒岳ポンマチネシリ火口温度



雌阿寒岳ポンマチネシリ火口噴煙高度



雌阿寒岳日別地震回数



雌阿寒岳火山活動経過図（1996年1月1日～2002年7月31日）↑印は噴火